校友時報

昭和39年10月10日
編集人兼発行所
秋田県能代市畠町迫分2
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所 大勝堂印刷所

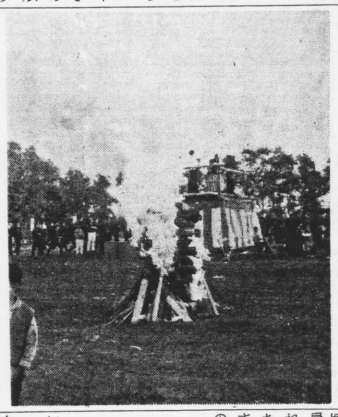
第五回能高祭 大成功のうちに幕を閉じる

前夜祭に一、六〇〇人

フォークダンス大成功

第五回能高祭は、九月二十二日前夜祭、二十三日本祭の日程で盛大に催された。今年は新企画の市内リレー、今まで計画されながら実行できなかったフォークダンスが成功し、例年以上の入場者があった。

今年の能高祭原案は企画部の努力により九月五日実行委員会で、発表された。これによると前夜祭の二十二日全校生徒参加の市内行進をするようになっていたが、各クラスのHRで反対者過半数のため、代りに代表による市内聖火リレーをすることになった。しかし、学校側から「当日はオリンピックの聖火リレーがあるため、それに類似した事をしては、オリンピック聖火リレーの権威が失なわれる」として〝マッタ〟がかかった。そのため聖火リレーを市内リレーにかえて行なうことにした。市内リレーの聖火の採火式は前夜祭当日の三時四十六分に二〇〇名の観衆が見守るうちに行なわれ、燃えあがるトーチは第一走者に渡された



市内リレーは宣伝カーを先頭に校門を出発し、市内七区間をまわった。五時十五分学校に到着した最終ランナーによって、聖火はすぐ

フォークダンス会場のグランドには中央にやぐらがくまれ、三方所のファイアストームと五十本の田楽が若人を照らした。初めは参加者も一〇〇人前後だったのが、輪はふくれにふくれあがり一六〇〇人に達した。そして歌とおどりの一時間半を楽しみ七時五十九分〝能高祭ばんざい〟の声で前夜祭の幕をとじた。フォークダンスは今年初めてだったがこの日のために能代フォークダンス講習会の吉岡先生を招き数回練習しておいたため皆慣れた足どりだった。

本祭当日の二十三日は朝から市内高校生などで校内は賑わい十一時頃はピークになり、どの会場も満員だった。開校式典終了後行なわれる予定だった講演会が中止されたのは残念だった。

また元本校教師の丹波先生、本校の柴田先生を囲んで、「教師と生徒の谷間」というテーマで座談会が開かれ〝教師と生徒が気軽に話しあえる場を持たねばならない〟ということで十二時半閉会した。

午後一時からは演劇会、音楽会が行なわれ盛況だった。

学用品の店

明るいお店に
きれいな文具

キムラヤ

ノート筆他
鉛その

畠町 TEL(2)五五三五

部説 われらの「意識」を持とう

「校長及び教員は、教育上必要があると認めるときは、監督庁の定めるところにより、学生、生徒及び児童に懲戒を加えることができる但し、体罰を加えることはできない」新憲法に基づく、教育の基本をなす学校教育法（昭和二十二年三月公布）には前述のように、さらには秋田県立高等学校学則にもそれと同じ趣旨が掲げられている。これに対する批判は別として現実はどうであろうか。これが正しく守られ施行されているかは甚だ疑問が持たれる。戦後民主化された学校教育の陰に依然として歪められた汚点が散らばっているという事実が、動かしがたい現実として横たわっているからである。

今年度になって以来数回、生徒が教師の体罰を受けるという事件が起ったことは、記憶に新しい

しかしこの大部分は生徒の校則無視によって引き起こされたことは否めない。事件の焦点はその行為が単なる主観に基づく《罰》であったのか、あるいは過度に教育に対し熱情を持った教師の《教育》に依存していたのかの二点に絞られる。仮に《罰》であるならば明らかに、人間疎外の行動であり、人道上さらに法律上の赤信号であるまたそれが《教育》だったのにしろ、民主主義教育の仮面の陰で歪曲されている学校教育の実態であるといわざるをえない。もっとも《罰》の占めるきらいが大きいのだが。

ここで視野を広げてみる必要がある。体罰を加えられた生徒に悪いのは校則を破ったという理由で明白であるが、一方的にその責任を彼等になすりつけてよいものだろうか。形式的な校則を制定し、それを避けることなく施行させていくことが教育指導の成果を修めることになる。しかし形式だけによる統制が教育なのだろうか。決してそうろうはずがない。生徒の意見や要求によらないもとで、それに密着しない教師の説教が恣意的に続く限り、処罰と反抗の悪循環が続く限り教育の歪みが存在するはずである。教師と生徒とが、互いに対立しあったり、冷淡であるところには教育の形式はあっても真実の教育は成立しない。

「教師が子どもに要求することはすなわち子どもを尊敬することである。自由の名で子どもを放任するもの、解放することだけが、教育の仕事だとするものは、子どもに要求するという教育の仕事を放棄しているのだが、それは要求にこたえて成長する子どもの人間的な可能性を信じないという点で、子どもを軽べつするものだ」（『教育実践と人間関係』依田新、国土社）

ここで要求されるものは《教師と生徒の遊離を食い止める》ことである。すなわち、教師と生徒間にある厚い壁を認めなければならない。そこにはいろいろな社会的条件も含まれるが、生徒側でも考えなければならない問題も潜んでいる。その壁を打破し、教師と生徒の間をもっと密接に、互いに信頼しあうためにも教師側ともに話しあえる雰囲気をつくり、納得のいくまで互いに討議する必要がある。そこには数しれない困難が横たわっているが、我々は常に批判的にして建設的な問題意識を持たなければならない。

「教師と生徒の接触の機微――それがまさしく教育の本質である」これは誰かが吐いた言葉だが一挙に理想的な段階に到達することは不可能にしても、過去の因習に盲従的な体罰の実態を改善する努力が払われなければならない。それが民主教育を受けている我々の要求であり、使命でもある。そして民主教育の健全さが伸長してゆくか、どうかという根本問題に結びついているのでもある。

時評 近頃の高校生の一面

隆

九月上旬のある日、親戚のAさんが遊びに来て「オジさん、高校ではありがとうと言うのを教えてないの」とたずねた。ある日の朝、登校途中に擦れ違う高校生が帽子を落したので拾ってやったら何にも言わずに受けとって去ったそうである。私は当然のことながら「教えているよ」と答えたが彼女の不審そうな澄んだ瞳が眩いかった。その生徒は帽子をかぶらずに手でクルクル廻しながら友達と歩いていたそうである。

近頃の高校生の一面が小学児童の鋭い批判を受けたのである。九月中旬のある夕方、用件で駅前に行った折、時間があって駅前の谷間に、高校生の中に自分の幸福を幸福と感じないで、日常を無為に過しているグループが残念ながら本校にもある新装の喫茶店に入った。高校生とすぐわかるグループが原色の派手なセーターを着て学校より解放されたとばかりはしゃいでいた丁度この時間、工場の片隅で定時制高校への登校時間を気にしながら一生懸命に働いている油くさい少年達の姿が同時に瞼に浮んだ。

近頃の高校生の一部で、こまかねた生徒が電球をもってくるが、翌日には隣りのクラスに入っていたりして、一つの電球が二つの教室間を往復している様子である。また三年A組からD組までの二階南側の教室にはまったく電灯の設備はない。二階南側の教室は光線の関係上必要ないとのことでつけておらなかったようだったが近ごろは他教室に変りなく「暗い」と訴えている。しかしこのことに関することは前々から生徒側との要求があったことである。たまりかねた生徒たちが幾度も学校側と交渉してはみたもののみな鉄砲玉の如きで返事はなく現在もそのままの状態である。教室内の明るさについても規則があるようだが、それにしても九月に入ってからは毎日のことで〝暗すぎる〟と生徒たちはいっている。

三年生の受験最後の追いこみに最善の環境でがんばってもらいたいものであり、これから冬に入りさらに暗くなるのではないかと思われる。

九月下旬のある夜、赤坂と言う檜山に近い所で十里強歩の監察に当った。一時頃この地点では初めての落伍者が出た。先頭から数えて一〇〇番ぐらい。肩を垂れて言うには洗内のある小道から急に疲生の三人グループがとび出て自分の前をステップも軽く走って行ったそうである。「折角の団体訓練の機会にある意味では神聖なスポーツと考えられる十里強歩に、自分は身体が未調なのに、ここまで頑張った。仲間にこういう人々が居るのは誠に残念だ」と。

近頃の高校生が団体生活のルールを守らない一つの見ふである。

（新聞部顧問）

授業能率下がる！ 電灯つけてください

いよいよ夏も過ぎ日の短い秋に入った時節だが本校はもはや秋も中ば過ぎの暗さである。本校の今年四月から七月までの月平均電力使用量は八七四KWH、八月は夏休みのため約五四一KWH、しかし九月に入ってからは八月の二倍半以上の一三七六KWHに増えており、これからも九月中旬から急に暗くなっていることがわかる。

校内では、特に昨年増築された一年A、B、C組。ソケットはあるもののかんじんの電球がなく曇天雨天日には黒板さえも見えない状態で、こまかねた生徒が電球をもってくるが、翌日には隣りのクラスに入っていたりして、一つの電球が二つの教室間を往復している様子である。また三年A組からD組までの二階南側の教室にはまったく電灯の設備はない。二階南側の教室は光線の関係上必要ないとのことでつけておらなかったようだったが近ごろは他教室に変りなく「暗い」と訴えている。しかしこのことに関することは前々から生徒側との要求があったことである。たまりかねた生徒たちが幾度も学校側と交渉してはみたもののみな鉄砲玉の如きで返事はなく現在もそのままの状態である。教室内の明るさについても規則があるようだが、それにしても九月に入ってからは毎日のことで〝暗すぎる〟と生徒たちはいっている。

三年生の受験最後の追いこみに最善の環境でがんばってもらいたいものであり、これから冬に入りさらに暗くなるのではないかと思われる。

スポーツライト

月日の経つのは早いもの。聖火リレー、能高祭、十里強歩、北高祭とめまぐるしい行事はあっという間もなく過ぎ去り今や十月、秋たけなわといったところである。

天高く馬こゆる秋。書店では「文化の秋」「読書の秋」、運動具店は「スポーツの秋」「オリンピックの秋」をスローガンに、食料品店でも「食欲の秋」「キリタンポ、ハタハタの季節」を…タイトルや宣伝文句には事かないのが、この季節、情緒ゆたかな〝秋〟である。

さて「居眠りの秋」「サボリの秋」とうそぶいていけずるY君たちよ、秋は能高教師連の眼光がさえることを知らないな。おお、くわばらくわばら！

× × × × × ×

勉強
運動
疲れに
グロモント
ヘルタス
えびす薬局
TEL 二―四四四九
駅前通り

まつや
秋
を楽しく
柳町 TEL2―2515

今日も猛勉
エーワンのパンが
ついています
エーワン・ベーカリー
パンと洋菓子
大町
TEL(2)2343

D・P・E
親切モットー
はらた
カメラ店
住吉町

Opt メガネ
Pen 万年筆
カモヤ
畠町 TEL2―3740

立体音響の喫茶
四季
柳町